

伊勢半本店 紅ミュージアム 特別展

魅る江戸の化粧道具

化粧道具

板紅

至高の技が
織成す小宇宙
贅を尽すレタ
リッパレト



2008年4月26日[土] - 6月29日[日]

開館時間 11:00~19:00(最終日は17:00まで) ※入館は閉館30分前まで
休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は翌日休館) / 入館料:無料 / 協力:輪島・金沢漆芸家一同

伊勢半本店 紅ミュージアム | 東京都港区南青山6-6-20K's南青山ビル1F
TEL. 03-5467-3735 URL. <http://www.isehan.co.jp>

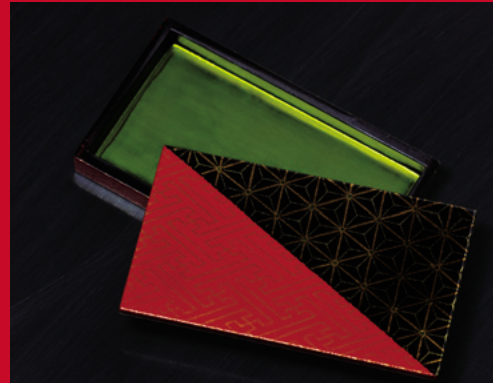


甦る江戸の化粧道具—板紅

日本を代表する工芸品「漆器」は、かつてその卓越した装飾技術でもって国内外問わず大きな影響を及ぼしました。江戸時代には膨大な数の漆器が海外に輸出され、漆黒の中に金銀・螺鈿で彩られた美の世界は、欧米の人々を魅了して止みませんでした。その技術が、このたび江戸の化粧道具「板紅」を通じて、新たな形で披露されます。

江戸時代、化粧の習慣が一般に広がるにつれ、化粧品容器にも様々なものが作られるようになりました。携帯用の紅入れ容器「板紅」もそのひとつです。大きさは5cm程度、象牙や金属・木製によるものが多く、二つ折りの薄い箱型のものが一般的です。それらは漆絵や蒔絵、象嵌などで美しく装飾され、時には一点物として制作されました。当時の女性は、板紅を懐中に携え、外出先での化粧直しの折などに取り出しては使っていたのです。その頃の紅は「紅一匁・金一匁」と言われたほど高価であり、良質なものは玉虫色の光沢を放ちました。それは紅職人が追求した究極の色であり、技でもあったのです。特別に詠えた板紅に至高の紅を刷く、まさに江戸の女性にとって贅の極みでした。

本展ではこの「板紅」を、輪島・金沢の漆芸家の手で現代に甦らせます。この機会に是非、古今途絶えず受け継がれてきた「漆」と「紅」、二つの真技をご覧ください。



板紅 片身変り小紋／川崎哲史作

《作品販売会》2008年7月4日(金)～7月6日(日)

本展で展示した「板紅」の一部を、本展終了後販売いたします。

※一作品に対し購入希望者が集中した場合は抽選となりますのでご了承ください。(本展開催中も購入希望申込を承ります)



1	3	5
2	4	6

1. 薔薇文板紅II(精円)／北野夏希作
2. 梅紋線螺鈿板紅／山村慎哉作
3. 石目乾漆「斑雪」・紅艶紋／北村竜治・優子作
4. 風切羽(蒔絵)／平澤公祥作
- 5, 6. 江戸時代後期の板紅／伊勢半本店 紅ミュージアム所蔵

《併催行事》

講演会「江戸の贅沢—漆工の愉しみを再び」

□2008年5月10日(土) 14:00～15:30

□2008年6月7日(土) 14:00～15:30

講師:山崎達文(金沢学院大学教授)／定員:15名(要予約)

予約・お問い合わせは伊勢半本店 紅ミュージアム(03-5467-3735)まで

【交通】

●地下鉄

東京メトロ「表参道駅」下車 B1出口から徒歩12分

●バス

①渋谷駅東口バスターミナル51番乗り場

都01系統 新橋駅前行き「南青山7丁目」下車 徒歩1分

都01系統 六本木ヒルズ折返「南青山7丁目」下車 徒歩1分

都01系統 東京ミッドタウン折返「南青山7丁目」下車 徒歩1分

②渋谷駅東口バスターミナル59番乗り場

渋88系統 新橋駅前行き「南青山7丁目」下車 徒歩30秒

伊勢半本店 紅ミュージアム

東京都港区南青山6-6-20K's南青山ビル1F

TEL. 03-5467-3735 URL. <http://www.isehan.co.jp>

